



## ○ 工作

いずれ子どもたちと作ってみたいと思っているものをこのたび試作してみました。同じようなものを作っている方々もたくさんいらっしゃることでしょう。ここでの自費はその材料調達です。木の枝と落ち葉はお隣の大蔵池公園で拾いました。段ボールは印刷用紙が入っていたものです。周りの模様は牛乳パックをちぎったものと枝をのこぎりで切ったときに出たおがくずです。「目」は枝の輪切りです。このように材料を調達するところから子どもたちに経験させたいと思っています。



「工作」と表現すると、立派な完成作品を想像しますが、上記の作品は夏休みに気楽に取り組んでみたいと思っています。自然の素材は枝でいえばまっすぐなものばかりではありません。組み立てには苦勞するかもしれません。その苦勞も子どもたちにはよい学びになるであろうと思います。

私は絵を描いたりすることも好きでしたが、工作も好きでいろいろなものを作ってきました。小学生の頃は技術を特に教えてくれる人もなく、ほとんどのものを自己流で作りました。いくつか思い出しながら工夫したこと失敗したことなどをつれづれに紹介してみます。

**弓矢** 狩猟本能があったのでしょうか？よく作りました。しかし、弓道やアーチェリーの映像で見るような“するどい飛び”は実現できませんでした。当然鳥などの獲物を狙っても当たるわけがありません。的はもっぱら柿の実でした。苦勞したり失敗した点を挙げてみます。

**竹の切り方、割り方**：「木もと竹うら」という表現だったと思いますが、竹は先の方からでなければなかなかまっすぐには割れません。当然のことながら太さの不均一な弓になりました。 **矢の材料**：普通に竹を割り、削って作っていましたが、まっすぐなものは1本もできません。竹は表と裏側があるわけなので、反るのは当たり前ですね。あとから知りましたが、矢になる材料は矢竹と呼ばれる一本ものでした。 **羽**：羽がついていなければまっすぐに飛びません。小学生の私が考えたのは鏃（やじり：先の部分）を重くすることです。当然これではダメでした。その後羽をつけることの意味が分かっても工作技術が伴いません。しかたなく紙を糊で貼ってつけましたが、射たときに弓に引っかかって危ない思いをしました。結局満足できる弓矢は作れませんでした。



弓矢のことを調べているといろいろとおもしろいことを見つけました。「きっとそうなる筈だ。」というときの「筈（はず）」は矢のお尻の部分の名称でした。

※挿絵なしで説明しましたが、内容が伝わったでしょうか？

## 自校自費

17日(土)に今年度5回目のオープンキャンパスを開催しました。今回の学生スタッフは1年生の竹村さんと橋本君でした。2年生は幼稚園実習の真っ最中で、参加できません。今回の内容は保育園訪問です。光市立浅江南保育園のご協力のもと、園児とのふれあい体験を行いました。子どもたちへどんな声かけをすればよいかとまどうこともあったようですが、実際にふれあってみると楽しさが実感できたのではないかと思います。

